

# 三陸防災復興プロジェクト 2019の開催に向けて

岩手県政策地域部  
三陸防災復興プロジェクト2019推進課  
参事兼総括課長

小野寺 宏和



## はじめに

2011年3月11日から7年の時が過ぎました。

東日本大震災津波で犠牲になられた方々に  
対し、謹んで哀悼の意を表しますとともに、  
未だ、応急仮設住宅等で不自由な暮らしを余  
儀なくされている方々をはじめ、被害を受け  
られた皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

この7年の間、県内外の皆様のご支援をい  
ただきながら、そのつながりや絆を力に、岩  
手県民は丸となって、「いのちを守り 海  
と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の  
創造」を目指し、安全なまちづくりや暮らし  
の再建、なりわいの再生に向けて取り組ん  
できました。

これにより、三陸沿岸道路等の交通ネット  
ワークや市街地の整備、災害公営住宅の建設、  
医療・福祉施設や教育施設の復旧、漁船や養  
殖施設の復旧、大型商業施設の開業などが着  
実に進展してきています。

一方で、未だ応急仮設住宅等で多くの方々  
が不自由な生活を余儀なくされており、一日  
も早い恒久的な住宅への移行と、復興の長期  
化によるこころと体のケアが必要となってい  
ます。また、災害公営住宅等で新たな暮らし

を始めた方々についても、新たな環境で、新  
しいコミュニティを形成していく必要がある  
り、そのための支援が必要となっています。

さらに、再生を果たした漁業や商店街、事  
業再開した中小企業についても、販路の回復  
や人材確保などの課題が生じているととも  
に、今後の人口減や復興需要の縮小などに伴  
う地域経済への影響も懸念されるところです。

このように、被災地では、復興の取組が進  
展する一方で、新たな支援ニーズの発生や、  
県内外との交流の活発化が求められている中  
にあつて、残念ながら、東日本大震災津波の  
風化が危惧されており、「被災地を忘れて欲  
しくない」「ここに来て欲しい」という復興  
の現場の声にこたえるために、三陸地域への関  
心を高め、国内外から多くの方に現地に来て  
いただけるような仕掛けを作ることが重要と  
なっています。

## 1 2019年に開催する理由

復興期間の後半となる2019年という  
年は、三陸鉄道がリアス線として、久慈駅か  
ら盛岡までつながる年であるほか、陸前高田  
市に整備が進められている東日本大震災津  
波伝承館の開館、ラグビーワールドカップ  
2019TMの釜石開催など、三陸地域が日  
本国内のみならず、世界的にも注目を集める

表1 沿岸地域の主なトピックス

時 期	主なトピックス
2018年 6月	宮古・室蘭間フェリー就航開始
2019年 3月	三陸鉄道久慈・盛間の一貫経営開始
2019年 3月	東北横断自動車道花巻・釜石間完成
2019年 3月	三陸沿岸道路 供用区間拡大
2019年 4月	大型外航クルーズ船 宮古港寄航
2019年	東日本大震災津波伝承館開館
2019年 9月	ラグビーワールドカップ2019™開幕

チャンスの年です(表1)。

このチャンスを活かし、市町村をはじめとする関係機関や、県内の経済・観光・交通等の関係団体と連携して、オール岩手の体制で、復興に力強く取り組む地域の姿を集中的に発信し、東日本大震災津波の記憶と教訓を伝えながら、風化を防ぐとともに、国内外からの復興への支援に対する感謝も伝える広域的・総合的な防災復興行事「三陸防災復興プロジェクト2019」(以下、「プロジェクト」

という。)を三陸地域全体で実施することとしました。

## 2 開催概要

### (1) オール岩手体制での実施

東日本大震災津波からの復興は、オール岩手の力を結集して取組を進めています。今回のプロジェクトも、復興の取組や岩手・三陸地域の多彩な魅力の発信を通じて、復興の加速化や交流人口拡大による地域経済の活性化を図るため、岩手県内の全ての市町村や県、国の関係機関のほか、経済・観光・交通等の関係団体等が参画する「三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会」(以下、「実行委員会」という。)により、オール岩手体制で実施することとしたところです。

### (2) 実施により目指すもの

このプロジェクトでは、まずは、復興のまちづくりを力強く取り組み、「新しい三陸の創造」に向かって歩みを進める地域の姿を発信し、復興の現状に対する関心を高め、東日本大震災津波の風化の防止や国内外の防災力向上にも貢献していくことを目指しています。

また、岩手・三陸地域の豊かで多彩な自然

環境、地形・地質、風土に根ざした歴史の中で育まれた文化遺産や伝統芸能等、三陸地域の魅力を国内外に発信する多彩な催事を実施することにより、このプロジェクトを機に来訪した方に岩手・三陸のファンになっていただき、再び訪れてもらえる三陸地域の形成を目指します(図1)。

### (3) 会期

会期は、2019年6月1日から8月7日までの68日間です。

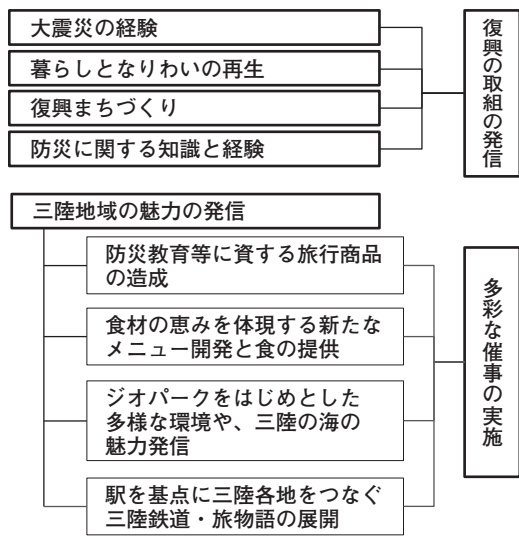
前述の「2019年に開催する理由」で紹介したとおり、2019年は、岩手・三陸地域が国内外から注目が集まるチャンスの年です。

例年、岩手・三陸地域の観光のハイシーズンは、5月の大型連休と、夏休み期間である8月ですが、2019年は、三陸鉄道が国内の第3セクターで最長となる総延長163キロメートルのリアス線としてスタートする年であり、3月23日の出発式を皮切りに、地元住民や三陸鉄道を応援する多くの方々のほか、鉄道ファンが、三陸鉄道の新たな魅力を感じしに、三陸地域に訪れてくれるものと期待しています。

また、夏休み期間後の9月と10月は、釜石鵜住居復興スタジアム(仮称)を会場として、

- 震災の風化防止
- 国内外の防災力向上への貢献
- 復興の今に対する関心や支援気運の高まり
- 「再び訪れたい」「再び味わいたい」三陸の形成

図1 目指す姿



ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>の試合が開催されることから、国内外から多くのラグビーファン、スポーツファンが、釜石市を中心に岩手県に来訪されることが見込まれています。

そこで、三陸鉄道の一貫経営に端を発した3月から5月の観光客の入り込みの流れを、8月の夏休みや、9月に開幕するラグビーワールドカップにつなげ、2019年の岩手・三陸の継続した交流人口の拡大につなげていくことを狙い、例年の観光の端境期となる6月から7月を中心にプロジェクトを実施することとし、会期を6月1日から8月7日としたところです。

なお、8月7日は、気仙地域の七夕まつりの日でもあり、東日本大震災津波の犠牲者への鎮魂の思いを示すとともに、復興に力強く取り組んでいる地域の姿、また、復興のその先の未来に向けて歩みを進めている三陸地域の住民の皆様の姿を国内外の多くの方に伝えていくため、七夕まつりの開催日とプロジェクトの会期末を同一日に設定しました。

#### (4) プロジェクトの概要

##### ① 基本コンセプト

会期中に行われる催事は、主に沿岸部の13市町村（宮古市、大船渡市、久慈市、陸前高田市、釜石市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村、普代村、野田村、洋野町）全体を会場とするオープンエリア型とし、各地域で様々な催事を展開する予定としています。

これにより、様々な地域で多様な催事が実施されることとなることから、催事全体を貫き通す基本コンセプトを「三陸がつながる。日本各地や世界とつながる。ひとつになって更に前に進む。」と設定したところです。

このコンセプトは、復旧や復興の取組を通して培われてきた、人と人、地域と地域のつながりや絆を財産とし、そのつながりを更に発展させながら、持続的に復興や地域課題の解決に取り組んでいこうとする決意を、2019年のプロジェクトを機に、改めて表明しているものです。

##### ② 催事計画

ア 目指す姿を実現するための5つのテーマ  
それぞれの催事は、目指す姿を実現し、持続的な三陸地域の振興につなげていくため、「防災の啓発と伝承」、「復興の現状の発信と支援への感謝」、「つながり・関係の強化」、「地域力の強化」、「新たな交通ネットワークの活用」という5つのテーマに沿って、実施内容を構築することとしています（表2）。

##### イ 検討催事の概要

「三陸防災復興プロジェクト2019基本計画」（平成30年3月23日決定）には、24の催事計画を掲げているところですが、具体的な内容については、復興の進捗状況や、特に、

表2 目指す姿を実現するための5つのテーマ

<p><b>【防災の啓発と伝承】</b> 東日本大震災津波の記憶・記録を体系化し、教訓を国内外に伝えるとともに、後世へもつなぐこと。</p> <p><b>【復興の現状の発信と支援への感謝】</b> 復興に力強く取り組んでいる地域の姿の発信と、復興への支援に対する感謝を伝えること。</p> <p><b>【つながり・関係の強化】</b> 復旧・復興を機に培われた人と人、地域と地域の絆を更に深化させること。</p> <p><b>【地域力の強化】</b> 三陸の地域資源の魅力を的確に伝え、その価値を高め、地域経済の活性化に資すること。</p> <p><b>【新たな交通ネットワークの活用】</b> 復興道路、復興支援道路、三陸鉄道、定期フェリー等新しい交通ネットワークの効果を十分に発揮するとともに、様々な催事を通じて交流人口の拡大を図ること。</p>
---

沿岸部の13市町村の状況等を鑑み、各市町村や関係団体と共に、本年中に実施内容の調整を進めていくこととしています。

これら24の催事計画のうち、オープニング

セレモニー、シンポジウム、祭りイベント、音楽イベント、クロージングセレモニーの5つを中核的催事と位置づけ、大規模集客施設等の使用が見込める、沿岸の市部を中心に実施する予定です。

このほか、岩手・三陸地域の自然や多種多様な食材などの魅力を活かしながら、沿岸の各地域で実施するイベントや、13市町村の共通のイベントを増やし、観光客のみならず、沿岸地域にお住まいの方が、誰でも・どこでもイベントに参加しやすい環境の構築を目指しています。

また、沿岸全体をオープンエリアとする会場のスケールを生かし、三陸鉄道の駅舎を中心とし、JR八戸線、大船渡線BRT（バス高速輸送システム）の関係駅や道の駅等とも連携した情報発信拠点の強化を図り、岩手沿岸各地の周遊や、内陸地域と沿岸地域をつなぐ周遊観光につなげていきたいと考えています（表3）。

③ 様々な主体の参加・協働・連携

前述「2 開催概要 (1) オール岩手体制での実施」に記載したとおり、プロジェクトの

様々な催事は、岩手県内の関係機関で構成する実行委員会が中心的役割を担いますが、本県は、2016年に開催した希望郷いわて国

体・希望郷いわて大会を県民参加で開催したという強みがあります。

今回のプロジェクトの各催事の実施に当たっても、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会のレガシーを継承し、NPOやコミュニティ団体、企業、地域、学校等との連携を図りながら展開していきたいと考えており、沿岸部の13市町村の住民をはじめとした岩手県民、県内外の復興支援者や、経済・観光・交通・報道等の関係団体や企業など、多くの参画を募ることにしています。

また、県内市町村や、国の関係機関及び岩手県が実施する取組とも関連付けながら実施することにより、それぞれの取組が相乗効果を発揮し、復興の推進や、三陸地域の活性化につながるよう進めていきたいと考えています。

なお、主体ごとの連携等の基本的考え方は、それぞれの主体に応じて次のとおり想定していますが、詳細については、本年8月頃を目途に参画募集に向けた公募要項等を公表したいと考えています。

A 県民の参加

沿岸市町村の住民をはじめとする岩手県民には、県民運動として展開した希望郷いわて国体・希望郷いわて大会でのおもてなしの活動の経験があります。

その経験を基に、プロジェクトにおいても、催事運営のボランティアや、観光客の歓迎などで活躍していただき、実行委員会と共に、プロジェクト企画を盛り上げていただきたいと考えています。

#### イ 団体、企業との協働

開催趣旨に賛同していただける県内外の団体や企業に対しては、協賛金や協賛物品などの支援をお願いしたいと考えていますが、それだけではなく、団体や企業が持つ知見やネットワークとの協働により、各催事の更なる深まりや、会期終了後のレガシーとして継続が期待される事業等について、実行委員会事業との共同実施等に向けて、呼びかけていきたいと考えています。

また、各団体や企業の独自企画であって、プロジェクトの趣旨に合致するイベントや、関連づけて実施するイベント等も募集し、実行委員会が一元的に広報を行うなど、企業や団体とも協力しながら、全体的な盛り上げにつなげていきたいと考えています。

#### ウ NPO、コミュニティ団体、地域、学校

##### 等との連携

プロジェクトの催事の実施については、NPO、コミュニティ団体や地域の皆さんとの連携を図りながら展開していきたいと考えています。

特に、プロジェクトの催事に訪れる観光客が岩手・三陸の魅力に触れる機会を増やしていきたいと考えており、地域の食の振る舞いや特産品の販売、郷土芸能の上演など、地域の皆さんには、多くの催事に参画していただき、更なる岩手・三陸ファンの拡大に協力していただきたいと考えています。

#### エ 市町村・国の関係機関・県の事業との連携

各市町村では、それぞれの特徴に応じて例年実施されるイベントがあり、それらのイベント等とプロジェクトで実施する催事が連携して開催できるよう、実行委員会において調整を進めていく予定としています。

また、県・市町村・関係機関の連携としては、これまでの復旧・復興事業に対して応援職員として携わってくださった方々やボランティアの皆さんとの交流会の開催などをはじめとして、特に、東日本大震災津波の風化防止や、人と人、地域と地域の絆の深化につなげていけるような企画を実施していきたいと考えています。

さらには、沿岸市町村と内陸市町村とのつながりの力を最大限発揮し、岩手全体としての交流人口の拡大に向けた取組も進めていきます。

## おわりに

昨年、本県で初めて全国知事会議が開催され、復興を成し遂げ、災害の教訓を次世代に継承し、あらゆる災害に負けないことを誓う「岩手宣言」が採択されました。

県においては、宣言も踏まえ、これまで述べてきたとおり、このプロジェクトにおいて「地元の底力」とさまざまな「つながりの力」で進めている復興の取組を発信するとともに、三陸地域において文化芸術・観光・食・ジオパークなどに関する多彩な催事を実施することで、三陸地域の姿や、ご支援への感謝をお伝えしながら、震災で得られた教訓や、三陸地域の多様な魅力も国内外に発信することなどにより、三陸地域への関心や認知度を高めながら、新しい三陸の創造につなげていきたいと考えています。

2019年のプロジェクトの開催に向け、関係者と一丸となってオール岩手で準備を進めていきますので、三陸地域の「今」を是非ご覧ください。

多くの方々のお越しをお待ちしております。

表3 催事の概要

No.	催事名称 (仮称)	開催地 (予定)	開催概要 (予定)
1	三陸防災復興プロジェクト2019 オープニングセレモニー	釜石市	オープニング企画として、これまでの復興の歩み・課題・未来を発信し、会期中の多彩な催事の周知を図るイベント
2	三陸防災復興シンポジウム2019	釜石市、久慈市 大船渡市 宮古市	①防災・減災、②支援・再生、③未来への知見、④三陸の魅力をテーマとしたシンポジウム (全4回)
3	オールいわて・祭りイベント	今後調整	三陸地域の伝統芸能をはじめとする岩手の祭りを一堂に会したイベント
4	さんりく音楽祭2019	久慈市 大船渡市 他	著名音楽家によるコンサートや音楽愛好家に向けた音楽クリニックの実施。各地域の音楽愛好家による演奏会。
5	三陸防災復興プロジェクト2019 クロージングセレモニー	陸前高田市	復興が進んでいるまちの現在と将来を展望し、一丸となって復興に向けて進む三陸の決意を発信するイベント
6	県内向けプレイベント：光り輝く三陸	釜石市	開催機運醸成に向けた音と光のイベント
7	県外向けプレイベント：ツーリズムEXPOジャパン2018への出展	東京都	国内外の旅行エージェントへの周知
8	LINK SANRIKUパビリオン	各駅舎等	交通拠点を活用した情報発信拠点の設置
9	いわてHAMAカフェ	各地域	食を中心テーマとしたおもてなし拠点の設置
10	三陸ガーデンレールプロジェクト	各地域 (調整中)	三陸鉄道沿線へのガーデニングによる新たな観光資源の造成
11	三陸浜のにぎわいフェスタ (三陸浜のバーベキューガーデン)	各地の 漁港等	漁港や魚市場を会場とした海産物を楽しむ「浜のまつり」
12	世界一のありがとうモニュメントプロジェクト	釜石市	ホタテの貝殻を活用したモニュメント制作
13	三陸ジオパーク ワクワクフェスタ	各地域	ジオパークをテーマとした展示やフォーラムの開催
14	三陸ジオパーク フォトロゲイニングフェスティバル	各地域	新たな三陸レジャーとしての景勝地をめぐるフォトロゲイニング <sup>※</sup> の実施
15	三陸防災復興展示会	各地域	震災時の支援団体の活動等の紹介や防災意識の啓発に向けたパネル展示
16	いわて創作アート&ものづくり文化祭	各地域	創作活動団体と地域住民の協働による創作アート等の展示会
17	三陸プレミアムディナー (ランチ) 列車	三陸鉄道	往復約2時間の鉄道の旅。1駅ごとに料理が1品ずつ提供される。
18	三陸鉄道「さんりく流れ星」列車	三陸鉄道	夜間運行する三陸鉄道での、三陸の夜の風景・事柄を楽しむイベント
19	いわて絆スポーツフェスタ	各地域	県内のスポーツ団体と連携した、スポーツによる交流イベント
20	三陸応援団 元気お届けキャラバン	各地域	継続的に復興支援に取り組んでいる著名人による被災地キャラバン
21	さんりく語り部交流列車	三陸鉄道	語り部のネットワークづくりと、震災体験の動画コンテンツ制作
22	オリジナルお土産品等の開発企画	各地域	三陸地域の新たなお土産品等の開発支援
23	いわて三陸学びの旅	各地域	震災・防災教育をテーマとする新たな旅行商品の造成と誘客の促進
24	いわて三陸ドライブ観光博	各地域	車による周遊客に向けたスタンプラリーの実施や、ドライブグルメの提供

※ フォトロゲイニングとは、地図をもとに時間内にチェックポイントを回り、見本として示される写真と同じ写真を撮影しながら得点を集める野外スポーツ。